



写真10 工場棟周囲緑地



写真12 橋内道路周辺緑地



写真16 厚生施設周辺の利用緑地



写真18 運動広場緑地



写真11 工場棟周囲緑地



写真13 橋内道路周辺緑地



写真17 厚生施設内の緑化空間



写真14 駐車場緑地



写真15 駐車場緑地

4.4 橋内道路・駐車場緑地

4.4.1 橋内道路

従業員が日常接する空間であり、資材や製品の搬入があることから、安全面と機能面を重視した植栽を行うことが大切である。

具体的には、利用者が、快適に散策・通行するための植栽であり、アプローチのための空間演出や建造物等の目標となるものを強調するような景観構成に配慮する。また、利用者は植栽によって囲まれた空間のそばを通ったり、中に入ったりすることにより空間の変化や空間美を強く感じ快適性を増進することから、園路沿いの植栽においては修景的な配慮も行う。

4.4.2 駐車場

駐車場は、工場の中でも広い面積を占める部分であるが、一般に植栽地も少なく、殺風景な景観となりがちである。したがって、できる限り緑陰樹を導入し、工場環境全体と調和のとれた駐車場の景観構成となるよう配慮する。

また、広い駐車場や道路に面した入口付近では、位置を示す視標として所々変化のある景観にすることも効果的である。

4.5 厚生施設周辺緑地

厚生施設周辺の利用緑地は、一般に、休憩時に利用されるものであるために、就業施設の近くには、しかも、効率的に休養、くつろぎが得られる場所として配置する。

このような小緑地や広場における植栽は、その空間を豊化する要素であるとともに、緑陰・觀賞・修景・象徴等の機能をも受け持つ。

緑地を主体とした空間では自然式が、広場の空間では整形式が周辺部と調和しやすい。また、植栽樹種の選定に際しては、踏圧や乾燥等の耐性に強く、テクスチャーや四季の変化や枝下が高いものが適しており、特に落葉樹が望ましい。

4.6 運動広場

工場内の運動広場としては、トラック、野球場、蹴球場、バレーコート、水泳プールなどがある。従業員のレクリエーションのための施設であるから、各々なものを揃えては、芝生の広場とし、各種の運動に使えるようにすることが望ましい。これらの施設はできるだけ1カ所にまとめたほうが管理・運営上からも望ましい。また運動施設は地域住民に開放することも考慮し、工場の周辺部で外部からの出入りに便利な場所とし、周囲は5～6

列の幅広い並木の緑陰樹が、工場の修景も兼ねた風致林植栽とし、緑陰空間を十分利用できるよう樹下は芝生とすることなども考えるとよい。

4.7 その他の緑地

4.7.1 空地(拡張予定地など)

新設工場などでは将来に備えて拡張予定地などのある場合が多いが、裸地のままにしておくとお蔭が飛散したり、雑草が繁茂するので、西洋芝やクローバーなどを播種しておくことよい。クローバーはマメ科の植物であるから、土壌改良にも役立つが高温に弱い。

4.7.2 斜面緑地

傾斜地の植栽地は、目につきやすく修景上のポイントになることが多い。低木や地被植物を利用して意匠的な配植に配慮する必要がある。一般的には法面では風致的な植栽を行い、中腹から法尻にかけては植物の種子が落ちて自然に生えてきたように配植すると自然風な景観をつくることできる。

長大な法面では、法尻から中腹方向へ灌木を大小の波状模様で配すると広がりや奥行き感を演出し、見飽きのこない景観となる。



写真19 拡張予定地



写真26 地植植栽による港らしい眺めの保全(北九州・門司港)



写真27 自然(緑)との対峙によるテクノスケープの演出①
(小名浜港)



写真28 自然(緑)との対峙によるテクノスケープの演出②
(仙台港)

ていくに違いはない。港湾開発において、今後、緑の計画思想の基軸になっていくものと予想される。

【熊谷 圭介】

【参考文献】

- 1) 運輸省港湾局監修：港湾緑地の植栽設計・施工マニュアル。港湾空間高度化センター(1999)
- 2) 運輸省港湾技術研究所・ラック計画研究所：人の動きからみた水辺部緑地の配置手法と形態誘導に関する調査報告書(1997)
- 3) 熊谷圭介：ウォーターフロントの計画ノート—オープンスペース計画—。共立出版、133-154
- 4) 本間啓：臨海埋立地における緑化対策。土木学会誌、1974、9、20-23(1974)
- 5) 本間啓：緑地と環境緑化計画<改訂版>—臨海埋立地の緑化—。フジテクノシステム、573-579(1992)
- 6) 樋渡達也：最先端の緑化技術—海岸の緑化—。ソフトサイエンス社、172-186(1989)
- 7) 五十嵐鉄朗：土の環境圏—臨海埋立地の緑地と植栽基盤の整備—。フジテクノシステム、746-761(1997)
- 8) 井上忠佳：海洋性レクリエーション地における緑化樹木の潮害被害と対策。公園緑地、47、3、59-69(1986)
- 9) 景観デザイン研究会(松崎喬)：人工海浜の景観デザイン(2)。130-147
- 10) 運輸省港湾局環境整備課：港湾緑地整備計画調査報告書。港湾空間高度化センター(1997)
- 11) 運輸省第五港湾建設局：港湾緑地規模設定方策調査報告書。港湾空間高度化センター(1997)
- 12) 運輸省港湾技術研究所・ラック計画研究所：港湾の景観計画手法に関する調査報告書(1993)
- 13) テクノスケープ：テクノロジーの風景。SD 367(1995)
- 14) 宮城俊作：風景モデルの変容。造景、13、119-126(1998)
- 15) 福島県小名浜港湾建設事務所他：おなまビューポート推進事業調査報告書(1996)
- 16) 亀山卓、樋渡達也・編：水辺のリハビリテーション。ソフトサイエンス社、113-117(1993)

4. 工場・生産施設における緑の計画とデザイン

1. はじめに

近年、産業環境が変わってきている。これは、工場そのものに求める社会的ニーズが変化してきていると同時に、工場そのものの機能の分散と複合によるオフィスの機能等の附加による多様化である。分散は、製造の第一次工程部門が土地および労働賃金等の安い海外への流出により、国内工場は最終工程の組み立て工場が多くなってきている。複合は工場と研究施設、研修施設、展示施設や企業博物館等の文化施設、または本社機能の一部との複合であり、工場そのものの機能が大きく多様化している。このように、最近では「工場」という言葉で表現することが難しい工場の形態の変化が進んでいる。

このように、工場自体の変化とともに、社会的な工場に対する認識も大きく変わってきている。業種にもよるが、工場は汚くて、うるさい所だという見方は少なくなり、地域社会に十分溶け込んだ存在となっており、むしろ市民企業としての役割を求められている。

2. 工場の外部環境に何が求められているか

人々の価値観の変化や、社会的ニーズに対応した工場の外部環境とは、どのようなものであろうか。

まず、経営者からみた場合、昔であれば生産活動につながらない外部空間は必要最小限の空間と内容としたいとする観があった。しかし、今日では快適な労働環境を整えることが従業員の作業負担を低減させるとともに、新規労働力の勧誘にも重要な役割を果たすことから、外部空間の確保とともに、その修景に対する認識は高まりつつある。また、企業イメージを重視する会社にとっては、工場の外部景観の内容は企業のアイデンティティに大きく影響するものであり、開放緑地や文化施設との連携により企業活動に伴う社会的責任や社会的貢献に積極的な役割を果たそうとしている。

従業員からみた場合、1日の1/3を工場の中で過ごすことから、快適な労働環境であることはもちろんである



写真1 研究施設等と一体となった工場



写真2 企業イメージを反映する外部環境



写真3 快適な生活環境としての外部環境